

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-280444

(43)公開日 平成10年(1998)10月20日

(51)Int.Cl.^a

E 02 D 29/02

識別記号

304

F I

E 02 D 29/02

304

審査請求 有 請求項の数6 OL (全7頁)

(21)出願番号

特願平9-83784

(22)出願日

平成9年(1997)4月2日

(71)出願人 595090691

株式会社ケイ

群馬県前橋市文京町二丁目27番3号

(72)発明者 関口 陽二

群馬県前橋市南町四丁目22番地の10

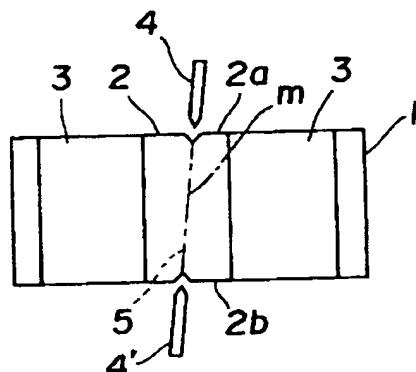
(74)代理人 弁理士 尾股 行雄

(54)【発明の名称】 摻壁用ブロックの製造方法及び摻壁施工方法

(57)【要約】

【課題】 造成地等の摻壁積みを容易とする摻壁用ブロックの製造方法及び摻壁施工方法を提供するものである。

【解決手段】 中間に一定幅の非空洞部分となる側肉用中間ムク部2とその両側に配筋用空洞部3を配設するダブル幅型ブロック本体1を形成し、次いでこのブロック本体1の中間ムク部2の上平坦面の所定位置と下平坦面の斜め下方位置に圧割り用刃物4, 4'を傾斜対向させ、この後前記両圧割り用刃物4, 4'を対向軸線上に向け打ち当てし双方に傾斜割り面5を設けた側肉厚を異にする2個の割りブロック体を一挙に形成するようにした。



【特許請求の範囲】

【請求項1】擁壁に用いるコンクリート製ブロックにおいて、中間に一定幅の非空洞部分となる側肉用中間ムク部とその両側に配筋用空洞部を配設するダブル幅型ブロック本体を形成し、次いでこのブロック本体の中間ムク部の上平坦面の所定位置と下平坦面の斜め下方位置に圧割り用刃物を傾斜対向させ、この後前記両圧割り用刃物を対向軸線上に向け打ち当てし双方に傾斜割り面を設けた2個の割りブロック体を一挙に形成することを特徴とする擁壁用ブロックの製造方法。

【請求項2】擁壁に用いるコンクリート製ブロックにおいて、中間に一定幅の非空洞部分となる側肉用中間ムク部とその両側に複列の配筋用空洞部と单一の配筋用空洞部とを配設するダブル幅型ブロック本体を形成し、次いでこのブロック本体の中間ムク部の上平坦面の所定位置と下平坦面の斜め下方位置に圧割り用刃物を傾斜対向させ、この後前記両圧割り用刃物を対向軸線上に向け打ち当てし双方に傾斜割り面を設けた2個の幅広の割りブロック体を一挙に形成することを特徴とする擁壁用ブロックの製造方法。

【請求項3】傾斜対向の圧割り用刃物位置を、中間ムク部の上平坦面と下平坦面にあって平行にずらし異なる側肉厚を設定する請求項1又は2記載の擁壁用ブロックの製造方法。

【請求項4】適宜個数の片側に傾斜割り面を設けた側肉厚を異にする配筋用空洞部付の擁壁用ブロックを、所定基礎上に厚幅の側肉厚をもつブロック順に積み重ね片側全域を連続傾斜面構成と共に、各ブロックの各配筋用空洞部を縦連通し他側の側肉厚部分を鉛直裏壁構成とし、全体として正面に所定勾配の傾斜割り面を設けた断面偏平台形状の所定高さの擁壁体とし、前記縦連通の配筋用空洞部に鉄筋を縦配筋し、この後縦連通となる各配筋用空洞部にコンクリートを打設し、コンクリート養生後に擁壁体の鉛直裏壁側に所定の埋め戻しを行うことを特徴とする擁壁用ブロックの擁壁施工方法。

【請求項5】適宜個数の片側に傾斜割り面を設けた側肉厚を異にする配筋用空洞部付の擁壁用ブロックと、片側に傾斜割り面を設けた側肉厚を異にする複列の配筋用空洞部を配す幅広の擁壁用ブロックとを、所定基礎上に複列の配筋用空洞部付の擁壁用ブロック側よりその厚幅の側肉厚をもつブロック順に積み所定高さで单一の配筋用空洞部付の擁壁用ブロックに切替え、更に同様厚幅の側肉厚をもつブロック順に積み重ね片側全域を連続傾斜面構成と共に、各ブロックの各配筋用空洞部を縦連通し他側の側肉厚部分を鉛直裏壁構成とし、全体として正面に所定勾配の傾斜割り面を設けた断面偏平台形状の所定高さの擁壁体とし、前記縦連通の各配筋用空洞部に鉄筋を縦配筋し、この後縦連通となる各配筋用空洞部にコンクリートを打設し、コンクリート養生後に擁壁体の鉛直裏壁側に所定の埋め戻しを行うことを特徴とする擁壁用ブロックの擁壁施工方法。

擁壁用ブロックの擁壁施工方法。

【請求項6】適宜個数の片側に傾斜割り面を設けた側肉厚を異にする配筋用空洞部付の擁壁用ブロックを、单一の基礎パネルの片側に厚幅の側肉厚をもつブロック順に積み重ね片側全域を連続傾斜面構成と共に、各ブロックの各配筋用空洞部を縦連通し他側の側肉厚部分を鉛直裏壁構成とし、全体として正面に所定勾配の傾斜割り面を設けた断面偏平台形状の所定高さの擁壁体とし、前記縦連通の配筋用空洞部に鉄筋を縦配筋し、且つ前記縦連通となる各配筋用空洞部にコンクリートを打設し、單一幅の傾斜割り面を設けたL型擁壁体ユニットを形成し、該L型擁壁体ユニットを適宜並べることを特徴とする擁壁用ブロックの擁壁施工方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は雑段状造成地等の法面に用いる擁壁用ブロックの製造方法及び擁壁施工方法に関するものである。

【0002】

【従来の技術】一般に、土木、建設用のコンクリート製ブロックの形状としては、中央部分に配筋用空洞部分を配設した所定寸法の角柱型ブロック形状を呈するものである。即ち、基本ブロックとなる角柱型ブロックは単に表裏面（両側面）を平坦面仕上げとしたブロック体であり、各種構築に当たっても単にブロック体を積み重ねて行く程度である。また、近時のコンクリート製ブロック使用の塀とか造成地の擁壁などの構築としては、表面に自然石に近い地肌をかもし出すようブロック表面に割り欠きを施し、その凹凸面をもって化粧面構成とする所謂割りブロックも出現している。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかし、上記の如き割りブロック製品としても基本的には角柱状の基本ブロック形態を取っている。このため、造成地などで擁壁構築をする場合、単に角柱状割りブロックを、例えば図14に示す様な従来工法である根固めブロックとなる所定基礎b上に敷ブロックcを介して割りブロックaを適宜勾配を付け順次傾斜に積み重ねをし、この積み重ねで形成される斜め連通となる各配筋用空洞部dに所定の鉄筋eを前記基礎bまで達する様に挿入した斜め配筋を行い、この後空洞部dにコンクリートfを打設し、所定のコンクリート養生を経て擁壁gが形成される。

【0004】この場合、片側（正面）に勾配を付ける割りブロックの傾斜積み作業としては自立して組積することができず、どうしても型枠又は支持具（図示せず）を必要とし、作業性が悪く、経費も嵩むものである。また、構築後の擁壁裏の埋め戻しとしても、この擁壁裏に構成される埋め戻し空間が仰角状空間を呈し狭くその埋め戻し作業も容易でない等の欠陥を有している。

【0005】本発明は上記実情に鑑み、ブロックの片側

にのみ所定角度の傾斜割り面が設けられるようダブル幅のブロック本体を二つ割り（傾斜割り）することにより自立して組積可能とし、上記課題を解決する擁壁用ブロックの製造方法及び擁壁施工方法を提供することを目的としたものである。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明は、擁壁に用いるコンクリート製ブロックにおいて、中間に一定幅の非空洞部分となる側肉用中間ムク部とその両側に配筋用空洞部を配設するダブル幅型ブロック本体を形成し、次いでこのブロック本体の中間ムク部の上平坦面の所定位置と下平坦面の斜め下方位置に圧割り用刃物を傾斜対向させ、この後前記両圧割り用刃物を対向軸線上に向け打ち当てし双方に傾斜割り面を設けた側肉厚を適宜設定した2個の割りブロック体を一挙に形成するものである。

【0007】また、擁壁に用いるコンクリート製ブロックにおいて、中間に一定幅の非空洞部分となる側肉用中間ムク部とその両側に複列の配筋用空洞部と单一の配筋用空洞部とを配設するダブル幅型ブロック本体を形成し、次いでこのブロック本体の中間ムク部の上平坦面の所定位置と下平坦面の斜め下方位置に圧割り用刃物を傾斜対向させ、この後前記両圧割り用刃物を対向軸線上に向け打ち当てし双方に傾斜割り面を設けた2個の幅広の割りブロック体を一挙に形成するものである。

【0008】この場合、傾斜対向の圧割り用刃物位置を、中間ムク部の上平坦面と下平坦面にあって平行にずらし異なる側肉厚を設定する。

【0009】また、もう一つの発明は前記ブロックを用いた擁壁施工方法の発明であり、適宜個数の片側に傾斜割り面を設けた側肉厚を異にする配筋用空洞部付の擁壁用ブロックを、所定基礎上に厚幅の側肉厚をもつブロック順に積み重ね片側全域を連続傾斜面構成すると共に、各ブロックの各配筋用空洞部を縦連通し他側の側肉厚部分を鉛直裏壁構成とし、全体として正面に所定勾配の傾斜割り面を設けた断面偏平台形状の所定高さの擁壁体とし、前記縦連通の配筋用空洞部に鉄筋を縦配筋し、この後縦連通となる各配筋用空洞部にコンクリートを打設し、コンクリート養生後に擁壁体の鉛直裏壁側に所定の埋め戻しを行うものである。

【0010】また、適宜個数の片側に傾斜割り面を設けた側肉厚を異にする配筋用空洞部付の擁壁用ブロックと、片側に傾斜割り面を設けた側肉厚を異にする複列の配筋用空洞部を配す幅広の擁壁用ブロックと、所定基礎上に複列の配筋用空洞部付の擁壁用ブロック側よりその厚幅の側肉厚をもつブロック順に積み所定高さで单一の配筋用空洞部付の擁壁用ブロックに切替え、更に同様厚幅の側肉厚をもつブロック順に積み重ね片側全域を連続傾斜面構成すると共に、各ブロックの各配筋用空洞部を縦連通し他側の側肉厚部分を鉛直裏壁構成とし、全体として正面に所定勾配の傾斜割り面を設けた断面偏平

台形状の所定高さの擁壁体とし、前記縦連通の各配筋用空洞部に鉄筋を縦配筋し、この後縦連通となる各配筋用空洞部にコンクリートを打設し、コンクリート養生後に擁壁体の鉛直裏壁側に所定の埋め戻しを行うものである。

【0011】更に、適宜個数の片側に傾斜割り面を設けた側肉厚を異にする配筋用空洞部付の擁壁用ブロックを、単一の基礎パネルの片側に厚幅の側肉厚をもつブロック順に積み重ね片側全域を連続傾斜面構成とすると共に、各ブロックの各配筋用空洞部を縦連通し他側の側肉厚部分を鉛直裏壁構成とし、全体として正面に所定勾配の傾斜割り面を設けた断面偏平台形状の所定高さの擁壁体とし、前記縦連通の配筋用空洞部に鉄筋を縦配筋し、且つ前記縦連通となる各配筋用空洞部にコンクリートを打設し、單一幅の傾斜割り面を設けたL型擁壁体ユニットを形成し、該L型擁壁体ユニットを適宜並べるものである。

【0012】この様に、擁壁用ブロックを、中間に二つ割り幅となる中間ムク部を配し両側に配筋用空洞部を配設するダブル幅型ブロック本体の前記中間ムク部を斜め割りし側肉厚を異にした割りブロック体を形成するものである。この場合、中間ムク部の斜め割り位置を適宜選定することにより傾斜割り面側の側肉厚が違う割りブロック体が得られる。このため、擁壁構築の積み重ね作業では、所定基礎側となる下段位置より前記側肉厚の厚幅の大きなブロック順に積めば、片側面に所定勾配をもつ自然凹凸をかもし出す傾斜割り面が自動的に形成され、このとき各ブロックの配筋用空洞部も縦連通され、他側の側肉厚も鉛直裏壁に構成される。

【0013】即ち、各ブロックは片側に傾斜割り面を付け下端部が広幅で上端部が狭幅となる断面台形状を呈するため、多数個を単に積み重ねしても自立して安定性がよく、型枠等を用いなくとも所定高さの構築が可能となる。勿論、この傾斜割り面は配筋用空洞部の片側部分の中間ムク部に設けたため、所定個数を積みあげたとき、各配筋用空洞部は縦連通となり、且つ傾斜割り面と反対側の側肉厚は一定のため鉛直裏壁が自動的に構成される。この後、縦連通の配筋用空洞部に鉄筋の配筋をし（必要にあっては、基礎上に予め配筋用鉄筋を植設しておき、該鉄筋を挿通しながらブロックを順次積み重ねる）、次いで縦連通の配筋用空洞部にコンクリートを打設する。このコンクリート養生を経れば擁壁構築が完了する。

【0014】また、高い擁壁の構築に当たっては、擁壁用ブロックを配筋用空洞部が2列配置の広幅のブロックを前記同様に傾斜割り面側の側肉厚部分を厚幅順に積み重ね、所定高さ単一の配筋用空洞部をもつブロックに切替え、同様に傾斜割り面側の側肉厚部分を厚幅順に積めば全体として正面に傾斜割り面を擁壁ができる。この場合の配筋は、2列配置の配筋用空洞部中、頂部まで連通

となる配筋用空洞部には長い鉄筋を用い、配筋用空洞部が中途で終わる箇所では短い鉄筋を用いる。このタイプは高い擁壁構築に適する。これら擁壁は正面全域となる外観では恰も天然石を割ったような自然凹凸をもつ傾斜面が現れる。

【0015】また、この擁壁構築に当たっては、各割りブロック体を現場積みせず、予め工場側にて組み付けた擁壁ユニットを用いてもよい。即ち、所定の基礎パネルの片側に前記同様割りブロック体を傾斜割り面が連続するように積み重ね、縦連通の配筋用空洞部に所定の配筋を施し、ここにコンクリート打設をしL型擁壁体ユニットとしたものを現場に搬入し適宜並べてもよい。

【0016】

【発明の実施の形態】以下、本発明の擁壁用ブロックの製造方法及び擁壁施工方法を示す概略図に基づいて説明すれば、次の通りである。

【0017】図1乃至図6は単一の配筋用空洞部をもつ割りブロック体となるコンクリート製の擁壁型ブロックを製造する実施例を示す。1は中間に一定幅sの非空洞部分となる側肉用中間ムク部2を配し両側に基本ブロックの配筋用空洞部と同様な配筋用空洞部3を配設する所定原料より成形したダブル幅型ブロック本体であり、このダブル幅型ブロック本体1の中間ムク部2の上平坦面2aの所定位置に、加圧割り装置(図示せず)側に取付く圧割り用刃物4を一定角度で斜め配置すると共に、該中間ムク部2の下平坦面2bにあって前記圧割り用刃物4の傾斜軸線m上となる斜め下方位置に圧割り用刃物4'を斜め配置する(図3参照)。この状態で、傾斜対向する一対の圧割り用刃物4, 4'を所定の加圧割り装置の動作をもって各対向軸線上に向く対向の加圧衝撃を与える、ダブル幅型ブロック本体1は双方(左右)に傾斜割り面5, 5をもった2個の割りブロック体6, 6が形成される。この2個の割りブロック体6は、各傾斜割り面5側の側肉厚(シェル)6aの幅tが異なる擁壁用ブロック6'として仕上がる。また、この一方の割りブロック体6は逆向き形状に構成されるため、使用に当たって一方の割りブロック体6は反転させる態様とするが、配筋用空洞部3を介した他の側肉厚(シェル)6bはあくまでも同一寸法を取る。また、傾斜割り面5の傾斜角度は、例えばブロック高さの1/10程度の幅に傾く角度である。

【0018】この場合、ダブル幅型ブロック本体1に対する二つ割り位置を、図4, 図5に示すように斜め対向の圧割り用刃物4, 4'をそれぞれ平行に適宜幅分移動させた位置に設定して圧割りすれば、割られた左右の側肉厚6a, 6aの幅tは更に異なる差をもった割りブロック体6, 6となり、各段の擁壁積み幅に適するものを得る。

【0019】ここにおいて、この擁壁用ブロック6'群を用いて擁壁構築をする場合、先ず適宜個数の擁壁用ブ

ロック6'を、その傾斜割り面5側の側肉厚6aの幅tが順次違ったブロックを揃えるものである。

【0020】ここで、予め擁壁の構築箇所に所定の基礎8を形成しておき、該基礎8の端上に擁壁用ブロック6'を積み重ねる。この擁壁用ブロック6'自体は断面台形状を呈し自立するため、単に側肉厚6aの幅tの大きなブロック順に積めばよい。即ち、基礎8に直接載る最下段の擁壁用ブロック6'は幅の大きな側肉厚6aをもつものを用い、この上面側肉厚6a'の幅tと次段の擁壁用ブロック6'の下面側肉厚6a''の幅tを合わせ段差を招かない積層構成とし、以下側肉厚6aの幅tの違う擁壁用ブロック6'を適宜個数積み所定段数で全体として断面偏平台形状を呈する所定高さの擁壁本体7が形成される。この場合、各擁壁用ブロック6'の各配筋用空洞部3は縦連通となり、且つ各配筋用空洞部3を介した他の側肉厚6bの幅t'はそれぞれ同一幅に形成されているため、擁壁積みされた各側肉厚6bが全体として鉛直裏壁9となる。

【0021】この後、擁壁本体7の中間に縦連通される各配筋用空洞部3に鉄筋11を下端が基礎8の配筋11'に達するように縦配筋する。この構築作業としては、実際には基礎8の所定箇所に縦配筋用鉄筋11を予め植設しておき、該鉄筋11に各擁壁用ブロック6'の配筋用空洞部3を案内しながら積み重ねる。また、積み重ねるブロック6'の中途には横配筋11aを適宜間隔に施す。

【0022】次いで、所定積みされた擁壁用ブロック6'群(図6にあって、6段積み)の縦中空となる各配筋用空洞部3にコンクリート12を打設し、このコンクリート12を所定養生すれば全体として断面偏平台形状の一体壁となる擁壁10が仕上がる。

【0023】最後に、擁壁10裏側に所定の埋め戻しを行(図示せず)が、該擁壁10の裏側は鉛直裏壁9に形成されているため、埋め戻し作業が簡単に行える。

【0024】図7乃至図12は前記実施例の擁壁用ブロックと強度を増す幅広の擁壁用ブロックを併用し高い擁壁構築に態様する他の実施例を示す。この場合の擁壁用ブロック6'の形成としては、図9乃至図11に示す様に中間に一定幅sの側肉用中間ムク部2を配し、この片面に複列(図示では2列)の配筋用空洞部3, 3を配設すると共に、他側には単一の配筋用空洞部3を配設するダブル幅型ブロック本体1を用いるものである。ここで、前記同様にブロック本体1の中間ムク部2の上平坦面2aの所定位置に圧割り用刃物4を斜め配置し、この傾斜軸線m上となる中間ムク部2の下平坦面2bに圧割り用刃物4'を斜め配置する。この状態で前記同様にダブル幅型ブロック本体1の中間ムク部2を対向の圧割り用刃物4, 4'で割れば、複列の配筋用空洞部3をもつ傾斜割り面5付き割りブロック6となり幅広の擁壁用ブロック6'を得る。図中、6cは中間の側肉厚6bに設

けた横配筋用切り欠き部である。

【0025】次に、この幅広の擁壁用ブロック6'を併用する擁壁構築としては、図7に示す様に前記同様所定の基礎8を形成した後、複列の配筋用空洞部3、3をもつ幅広の擁壁用ブロック6'を、その傾斜割り面5側の側肉厚6aの幅7の大きなブロック順に積み重ねれば複列の配筋用空洞部3も縦連通に構成される。この擁壁用ブロック6'が所定段数(図示にあって、4段)を積み重ねた後は、前記单一の配筋用空洞部3をもつ細幅の擁壁用ブロック6'の積み重ねに切替える。このとき、広幅の擁壁用ブロック6'における最上位の上面側肉厚6a'の幅7と、切替え積みする細幅の擁壁用ブロック6'の下面側肉厚6a''の幅7とは合わせたものを用い、全体として正面にあって連続する傾斜割り面5を構成するようにする。

【0026】この後、幅広の擁壁用ブロック6'の前方側に形成される短い縦挿通となる配筋用空洞部3には短い鉄筋11の配筋をし、後方側となる幅広の擁壁用ブロック6'と上部に重ねる細幅の擁壁用ブロック6'とに亘り形成される長い縦連通の配筋用空洞部3に長い鉄筋11の配筋を行い擁壁本体7を形成する。勿論、これら配筋にあっては適宜箇所に横配筋11aも施す。

【0027】更に、前記擁壁本体7に形成される前後2列の配筋用空洞部3に所定のコンクリート12を打設し、このコンクリート12を養生すれば正面に自然凹凸の傾斜割り面5をもち背面が鉛直裏壁9が構成される高い擁壁10が仕上がる。

【0028】最後に、高い擁壁10の裏側に所定の埋め戻しを行うが、この裏側は鉛直裏壁9にならっているため、埋め戻し作業が容易となる。

【0029】また、図12、図13は擁壁を予め工場サイドで形成するL型擁壁体ユニットとする他の実施例を示す。この場合は、所定幅をもつ单一の基礎構成となる基礎パネル13の一端上に、前記同様に複列の配筋用空洞部3を配設する幅広の擁壁用ブロック6'と单一の配筋用空洞部3を配設する細幅の擁壁用ブロック6'を、前記同様に傾斜割り面5側の側肉厚6aの大きな幅のブロック順に積み重ね、且つ縦連通の配筋用空洞部3にコンクリート12を打設し固めて一体のL型擁壁体ユニット10'となる。また、このL型擁壁体ユニット10'では搬出に適するように上端縁部に適宜の吊り下げフック14を取付ける。この吊り下げフック14は縦鉄筋11の上端に溶着する。また、この配筋は鉄筋11に張力を掛けた状態でコンクリート打設を行い吊り下げ応力に対応すべく所謂P.S.コンクリート構成としておく。

【0030】このL型擁壁体ユニット10'を用いた擁壁構築では、この單一幅をもつL型擁壁体ユニット10'を所定現場に搬入し、この上部に臨む吊り下げフック14に適宜クレーン等をもって吊り下げの構築部分に順次並べて行けば簡単に擁壁が仕上がる。

【0031】

【発明の効果】上述の様に、本発明の擁壁用ブロックの製造方法及び擁壁施工方法は、中間に側肉用中間ムク部をもち少なくとも両側に配筋用空洞部を配したダブル幅型ブロック本体を、中間ムク部の上下面を斜め対向する一对の圧割り用刃物で二つ割りし、その割り面に自然凹凸をかもし出すようにした割りブロック体を2個一挙に形成され、擁壁に適する断面台形状のブロックとなる。また、擁壁下方の強度を増す割りブロック体としては片側の配筋用空洞部を複列としたものを用い、同様に中間ムク部を斜め割りすれば簡単に幅広の割りブロック体が形成される。

【0032】このため、この割りブロック体を用いる擁壁構築としては、割りブロック体自体の形状が全体として断面台形状を呈するので単に積み重ねても座りがよく自立し、このため所定基礎上に型枠又は支持具を用いなくとも、割りブロック体を傾斜割りに起因する側肉厚の厚いブロック順に積み重ねるだけで所定高さの擁壁本体ができ、且つ縦挿通の配筋用空洞部も構成され、このため該空洞部に所定配筋をしてコンクリート打設するだけで簡単に擁壁が仕上がる。また、この擁壁は裏側が鉛直裏壁となるため埋め戻し作業も容易で作業性の向上につながる。

【0033】この場合、高い擁壁構築としては、下段部側に配筋用空洞部を複列配置の幅広の割りブロック体から前記同様に積み、中途で配筋用空洞部が单一の割りブロック体の積み重ねに切替えれば、全体として下方を広幅で上部を細幅とした断面偏平台形状を呈す強度の出る擁壁が簡単に構築される。勿論、このときも縦挿通となる

各配筋用空洞部に所定の配筋を施しコンクリート打設を行なう。即ち、この様なブロックを用いることで型枠(支持具)を用いない現場組みの擁壁構築ができ、工期の短縮が図られ経済的であることは勿論のこと、緊急性にもて適する施工方法となる。

【0034】また、必要にあっては、この擁壁用ブロックと基礎とを、予め工場サイドで組み付け一体のL型擁壁体ユニットとしておけば(プレバブ化)、このユニット擁壁を現場搬入し所定箇所に据え付ける工法を取れば、更に工期の短縮につながると共に、均一製品の提供もできる等の効果を有する。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の擁壁用ブロックの製造方法の一実施例を示すダブル幅型ブロック本体の斜視図である。

【図2】同片側に傾斜割り面を付けた擁壁用ブロックを示し、(A)は斜め割りする説明図であり、(B)は二つ割りして形成した擁壁用ブロックの斜視図である。

【図3】同ダブル幅型ブロック本体の中間ムク部の上面に圧割り用刃物を傾斜配置する説明図である。

【図4】同ダブル幅型ブロック本体の中間ムク部の割り筋を示す平面から見た説明図である。

【図5】同ダブル幅型ブロック本体の中間ムク部の割り筋を示す側面から見た説明図である。

【図6】単一の配筋用空腔部をもつ擁壁用ブロックで擁壁構築をする説明図である。

【図7】単一の配筋用空腔部付き擁壁用ブロックと複列の配筋用空腔部付き擁壁用ブロックを組み合わせる高い擁壁構築となる他の実施例を示す説明図である。

【図8】同一部切り欠きし内部配筋を臨む斜視図である。

【図9】複列の配筋用空腔部を配するダブル幅型ブロック本体の平面図である。

【図10】複列の配筋用空腔部を配するダブル幅型ブロック本体を斜め切断する説明図である。

【図11】複列の配筋用空腔部を形成したダブル幅型ブ

ロック本体の斜視図である。

【図12】基礎と擁壁体を一体構成とする他の実施例となるL型擁壁体ユニットの斜視図である。

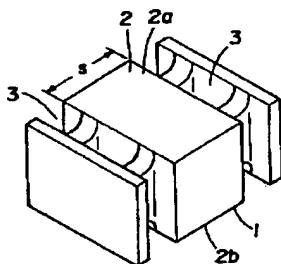
【図13】同一部切り欠き正面図である。

【図14】従来ブロックを用いた擁壁構築の説明図である。

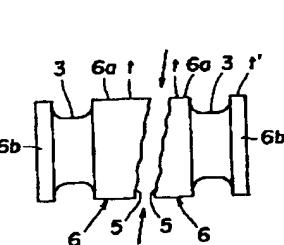
【符号の説明】

- 1 ダブル幅型ブロック本体
- 2 側肉用中間ムク部
- 3 配筋用空腔部
- 4, 4' 圧割り用刃物
- 5 傾斜割り面
- 6 割りブロック体

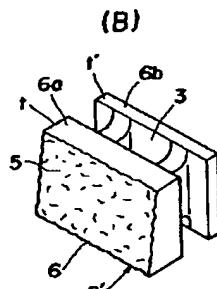
【図1】



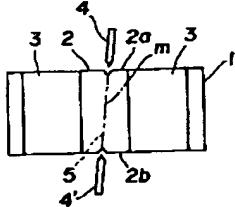
(A)



【図2】

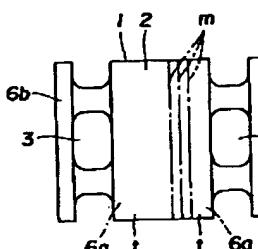


【図3】

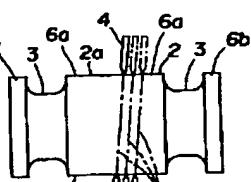


【図7】

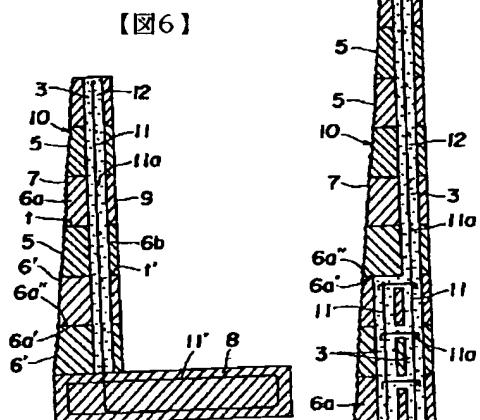
【図4】



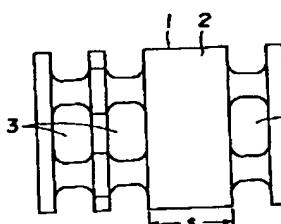
【図5】



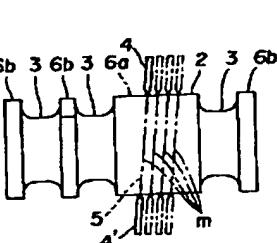
【図6】



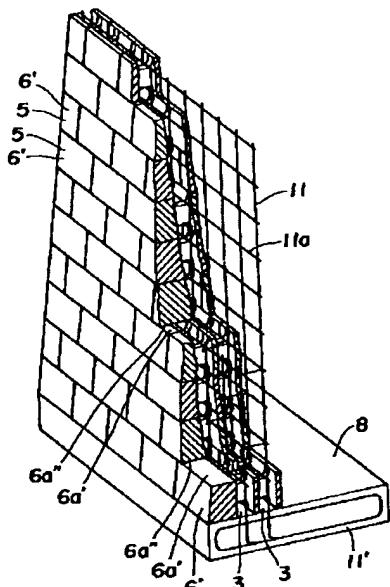
【図9】



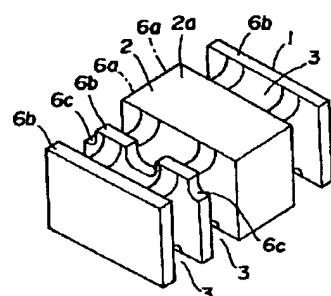
【図10】



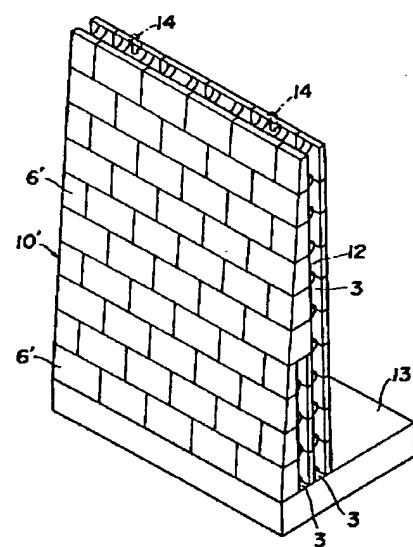
【図8】



【図11】



【図12】



【図14】

【図13】

